

科目名 (英)	数学 ( Mathematics )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋未倫
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士として8年間の実務経験. 修士(理学), Golf physio trainer(2017取得) 元高等学校教諭(理科)						
授業の学習内容	本授業ではこれからの物理学・統計学等あらゆる分野において応用可能であり、実社会においても役立つ計算を多く取り入れている。基礎の基礎から学び、数学嫌いを克服し、これから活かせる知識を習得することができる。						
到達目標	本講義の到達目標は、光学系の計算で使用する、三角関数・二次関数をどんな形でも使用できるようになることである。 全てのことは数学で成り立っており、数学なくして物質の成り立ちは説明できない。 全15回の講義では、必ずどの分野でも必要な共通部分に関してマスターすることを目指す。						
評価方法と基準	レポートおよび出席数で評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義	四則演算・小数・分数の計算ができる	授業内容の復習
2	4月23日	講義	四則演算・小数・分数の計算ができる	授業内容の復習
3	5月7日	講義	文字式・一次方程式の計算ができる	授業内容の復習
4	5月14日	講義	連立方程式・式の展開ができる	授業内容の復習
5	5月21日	講義	因数分解・二次方程式の計算ができる	授業内容の復習
6	5月28日	講義	平方根について理解する	授業内容の復習
7	6月4日	講義	中間試験	試験内容の復習
8	6月18日	講義	二次関数において、たすき掛けを利用できる	授業内容の復習
9	6月25日	講義	二次関数において、解の公式を利用できる	授業内容の復習
10	7月2日	講義	指数・対数を理解する	授業内容の復習
11	7月9日	講義	指数から対数、対数から指数に変換できる	授業内容の復習
12	7月16日	講義	三角関数の基本を理解する	授業内容の復習
13	7月23日	講義	三角関数の応用を理解する	授業内容の復習
14	7月30日	講義	最終試験, 中間テスト解説	授業内容の復習
15	8月6日	講義	レポート解説	授業内容の復習
準備学習 時間外学習			適時課題を出します。	
【参考書】 間地 秀三著「小・中・高の計算がまるごとできる」(ベレ出版)				

科目名 (英)	統計学 ( Statistics )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	鈴木寿則
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期 曜日・時限 金曜・2限
教員の略歴	医学博士を取得後、教育機関で9年間の教育経験を有する。						
授業の学習内容	この授業は、視能訓練士に必要な統計学の知識を学修するためのものである。 他に関連する科目として、公衆衛生学における疫学分野がある。 受講生に対する要望は、卒業後の研究活動に役立てるためにを学んでほしい。 そのために、授業の展開として、教科書を中心に講義を行い、統計学の基礎について学び説明できる。						
到達目標	①医学研究に必要な統計学の基礎知識を説明できる。 ②統計的視点からの医学的判断を説明できる。						
評価方法と基準	定期試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/10	講義	医学研究のプロセスについて説明できる。	教科書の通読
2	9/17	講義	データの収集について説明できる。	教科書の通読
3	9/24	講義	変数について説明できる。	教科書の通読
4	10/1	講義	変数の測定方法について説明できる。	教科書の通読
5	10/8	講義	測定の妥当性について説明できる。	教科書の通読
6	10/15	講義	悉皆調査について説明できる。	教科書の通読
7	10/22	講義	標本調査について説明できる。	教科書の通読
8	10/29	講義	調査票の作成方法について説明できる。	教科書の通読
9	11/5	講義	選択肢の設定について説明できる。	教科書の通読
10	11/12	講義	実験計画について説明できる。	教科書の通読
11	11/19	講義	統制について説明できる。	教科書の通読
12	11/26	講義	クロス集計析について説明できる。	教科書の通読
13	12/3	講義	代表値について説明できる。	教科書の通読
14	12/10	講義	相関分析について説明できる。	教科書の通読
15	2/4	講義	スクリーニングについて説明できる。	教科書の通読
準備学習 時間外学習		あらかじめ教科書を通読し、講義内容の概略を把握しておくことを目的とする。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
古野谷 亘・長田久雄 著 『実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方』 ワールドプランニング, 1992.				

科目名 (英)	情報処理学 I ( )	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	阿部ゆきみ
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	15時間 (2単位)	開講区分	後期 月曜日 曜日・時限 3時限目
教員の略歴	Word・Excel・PowerPointの操作方法を専門学校・PCスクール・企業研修・就職支援などで指導						
授業の学習内容	現代では業種・職種を問わず社会生活に必須となっているパソコンのスキルが求められています。シェアが90%を超えているWindows系のOfficeを実技を中心として学び、職場での活用技術を身に着ける。 業務報告書の作成、データ集計・集計結果の分析、学会に向けての資料作りなど。 視能訓練士として必要なパソコンスキルを学ぶ。						
到達目標	Word・Excel・PowerPointの基本操作、効率の良い使用方法、また、実務例に基づいたレポート・資料などの作成ができるレベルを目指す						
評価方法と基準	実技試験70% 出席点15% 平常点15%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	演習	効率のよい入力方法を覚える	準備学習
2	10月18日	演習	Wordの基本編集機能を操作できる	Windowsの基本操作(日本語入力・マウス操作・キーボード操作)やファイル・
3	10月25日	演習	ビジネス文書の基本ルールを覚える	フォルダーの扱い(作成・移動・コピーなど)ができる方が望ましい
4	11月1日	演習	表を作成・編集できる	学習課題
5	11月8日	演習	グラフィックスを使用できる	積み重ね授業になるので、授業終了後は復習をし、確実に次の時間に活かせることが望ましい
6	11月15日	演習	ワークシートの効率的な編集ができる	
7	11月22日	演習	四則演算ができる	
8	11月29日	演習	簡単な関数や、参照方法ができる	
9	12月6日	演習	表を編集し、印刷設定ができる	
10	12月13日	演習	グラフを作成できる	
11	12月15日	演習	スライドの基本操作やテーマを設定できる	
12	12月20日	演習	スライド内で表やグラフを活用できる	
13	12月22日	演習	Web上の画像やグラフィックスを扱える	
14	1月17日	演習	アニメーション効果をかけられる	
15	1月31日	演習	試験解説	
準備学習 時間外学習			パソコン操作に慣れるためにも時間外にも報告書・課題などパソコンを使用して作成してほしい	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
滋慶出版社 Word2016・Excel2016・PowerPoint2016				

科目名 (英)	生物学 ( Biology )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋英子
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	前期 火曜日1限
教員の略歴	山形大学医学部助教、東北大学医学部助教、薬学博士、医学博士						
授業の学習内容	基本的には教科書を中心に展開する。 「人の構造と機能」を理解するための基礎知識としての生物学と位置づけ、高等学校で生物学を学んでこなかった学生にも、生物現象を理解でき、日々自分の体で起こっている事象と照らし合わせて考えられるような授業構成とする。						
到達目標	人体機能の基本を解明する「人の構造と機能」を理解する基礎知識としての生物学と位置づけ、今後学ぶ医学系教科を理解するための基礎作りを目標とする。 さらに将来、医療従事者(視能訓練士)になる者として必要とされる「生命科学」の基礎知識の習得も目指し、関連する国家試験問題にも対応できる力を身に着ける。						
評価方法と基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月6日	講義	教科ガイダンス、 第1章 生物とは何かを説明できる。	
2	4月20日	講義	第2章 体は細胞からできる事を説明できる	細胞を構成している細胞内小器官について、その構造と機能をまとめる
3	4月27日	講義	第2章 細胞・組織・器官から、からだかできて理解する(～P16)、第5章 1 人体のつくり(P43～P44)では、器官系について説	教科書P16のkeywordの部分の説明できるようにしておく
4	5月11日	講義	第5章 2 血液の働きを説明できる(P44～P51)	血液の成分(血球、血漿)の種類と機能を説明できるようにする
5	5月18日	講義	第6章 からだの調節のしくみ(免疫)について	免疫の分類、しくみについて説明できるようにする
6	5月25日	講義	第3章 食べ物からエネルギーをつくる仕組みを説明できる	解糖系、クエン酸回路、電子伝達系をそれぞれ説明できるようにする
7	6月1日	講義	第4章 食べ物から、からだをつくるの章では、蛋白質・脂質合成を説明できる(P34～	蛋白や脂質の合成の仕組みを説明できるようにする
8	6月8日	講義	第4章 体の水分について説明できる(P39～P41)	体内での水の分布や働きを説明できるようにする
9	6月15日	講義	第6章 神経系のしくみを説明できる(P53～P55)	神経系の成り立ち及び働きを説明できるようにする
10	6月22日	講義	第6章 内分泌系の働きを説明できる(P56～P60)	内分泌系の構成と作用を説明できるようにする
11	6月29日	講義	第2章 4 細胞分裂と増殖について説明できる(P16～P21)	体細胞分裂と減数分裂の違いを理解する
12	7月6日	講義	第8章 遺伝子の本体DNAについて説明できる	DNAの構造とタンパク合成の仕組みを理解する
13	7月13日	講義	第7章 子どもが親に似る遺伝のなぞを説明できる	性染色体と伴性遺伝を理解する
14	7月20日	講義	からだのしくみについて説明できる(まとめ)	「人の構造と機能」の理解につながるように、生命現象に共通した原理や仕組みを説明できるようにする
15	8月3日	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】教科書名:『わかる生物学』著者:小野廣紀・内藤通孝 出版社:化学同人 □ 単元ごとに必要に応じて、参考資料を配布□				

科目名 (英)	物理学 ( Physics )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋未倫
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	前期 金曜日5 限
教員の略歴	理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学)、Golf physio trainer(2017取得) 元高等学校教諭(理科)						
授業の学習内容	本講義は物理学を主体とするが、光とレンズの生物学的応用例は眼球が該当する。眼球は視神経を通じて脳内へ情報を送り、画像として認識(もしくは誤認識)することとなる。視能訓練士になるにあたって必要な学習であり、物理学は視覚を理解することの基礎となる。基礎から学び、最終的にレンズを通じた結像位置情報を全員が取得できる様になるよう授業展開する。						
到達目標	視能訓練士における光学は、視覚のしくみ及び光学機器の取り扱いを理解する上で基礎となるものであり不可欠である。本講義では光学の基礎と、それに伴う数学的知識を学ぶ、それらを通して、物理学視点を持って光を扱えるようになることを目指す。						
評価方法と基準	1 定期試験 60 % 2 小テスト 20 % 3 授業態度と参加度 20 %						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/12	講義	光学に必要な数学知識が理解できる	
2	4/19	講義	光の性質を説明できる	
3	4/26	講義	光の速さを用いた計算ができる	
4	5/10	講義	光の屈折・反射について理解できる	
5	5/17	講義	光の全反射の条件が理解できる	
6	5/24	講義	光の散乱・分散について理解できる	
7	5/31	試験・講義	中間テスト・レンズの特性について理解できる	
8	6/14	講義	凸レンズが結ぶ像の種類・大きさ・距離を計算できる	
9	6/21	講義	凹レンズが結ぶ像の種類・大きさ・距離を計算できる	
10	6/28	講義	写像公式を用いた計算ができる	
11	7/5	講義	レンズが生じる収差を理解できる	
12	7/12	講義	レンズと眼球の差を理解できる	
13	7/19	講義	顕微鏡におけるレンズの役割について理解できる	
14	7/26	講義	練習問題演習	
15	8/9	講義	試験問題解説	
準備学習 時間外学習		毎回課題を出します。次の授業までに行ってください。		
【使用教科書・教材・参考書】 基礎～初級：よくわかる最新レンズの基本と仕組み、桑嶋 幹 著 中級～上級：光学機器入門、会田軍太夫他 著				

科目名 (英)	心理学 ( Psychology )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	蒔苗詩歌
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	土曜 曜日・時限 1.2.3限
教員の略歴	修士(教育学) 専門領域は認知心理学、特別支援教育。大学障害学生支援室や精神科にて勤務。						
授業の学習内容	心理学には幅広い領域がありますが、中でも「視覚」に関わる心理学について重点的に扱います。「見る・見ようとする・見えにくい・見えない」などといった経験について、心理学の視点から学んでいきます。日々の生活で何気なく見ている世界が、実は複雑な情報処理過程から成り立っていることを知り、日常生活での経験と結びつけて、その仕組みを考察できるようになることを目指します。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で提示されるキーワードについて説明することができる。</li> <li>・心理学的視点から、日常生活における視覚に関わる事象を検討することができる。</li> <li>・視能訓練士業務において、心理学的な視点をどのような場面で生かすことができるか、考えることができる。</li> </ul>						
評価方法及び基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小テストおよび小レポート 40% 各日終了時に課題を提示します。次回授業時に小テストによる確認、あるいは小レポート提出を課します。授業で扱った内容について、復習しましょう。また簡易実験により体験的に学びます。積極的に参加しましょう。</li> <li>2. 最終レポート 60% 丸暗記するだけでなく、自身の言葉で整理・説明できること、自分の生活と結び付けて考えることを求めます。視能訓練士を目指すにあたって、心理学の知識をどのように生かすことができるか考えてみましょう。</li> </ol>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5月8日	講義	心理学とは、心理学諸領域で心を測ることができる。	「こころ」とはなんだろう、どのように考えますか？
2	5月8日	講義	視知覚：明るさ、色、奥行き、運動などについて説明できる。	見ることを情報処理として考えてみましょう。
3	5月8日	講義	錯視・錯覚、簡易実験による体験を説明できる。	日常生活での見る「経験」を振り返ってみよう。
4	5月22日	講義	視知覚：大きさ、形、まとまりなどを説明できる。	視覚の経験と情報処理、合わせて考察してみましょう。
5	5月22日	講義	視覚的注意：視覚と注意の関わりが説明できる。	注意によって見える／見落とす事象を考えてみましょう。
6	5月22日	講義	感覚間相互作用、簡易実験による体験が説明できる。	見る×聴く×触る、感覚を体験してみましょう。
7	6月5日	講義	記憶：短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリが説明できる。	記憶の種類を説明できるようになりましょう。
8	6月5日	講義	イメージ：視覚イメージとその操作が説明できる。	見えない部分を想像する機能を考えてみましょう。
9	6月5日	講義	身体と認知の関わり、簡易実験による体験が説明できる。	身体と心、認知との関わりを考えてみましょう。
10	6月26日	講義	生涯発達：見る機能の発達、見える世界の広がり説明できる。	私たちはいつから「見る」ことができると思いますか？
11	6月26日	講義	障害：感覚・知覚・認知機能の障害が説明できる。	見る機能について考えてみましょう。
12	6月26日	講義	視覚世界の個人差、疾患や障害の疑似体験が説明できる。	「見る」と「見える」の間を考えてみましょう。
13	7月10日	講義	臨床：見る世界を聞き取り、評価し、治療・支援へが説明できる。	相手が見ている世界を想像してみましょう。
14	7月10日	講義	基礎と臨床：心理学の視点を視能訓練に生かすことが説明できる。	視能訓練士にとって心理学は役に立つと思いますか？
15	8月17日	講義	最終レポート解説、授業まとめ	自身のレポートをふりかえり、理解を深めましょう。
準備学習 時間外学習		テーマに関連した日常経験を“おやつ？”とふり返り、考察してみる機会を大切にしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】学校指定：山田富美雄(編)『医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー』、北大路書房 毎時間、資料を配布します。各回テーマの参考書を提示しますのでぜひ復習に活用してください。				

科目名 (英)	英語 ( English )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小椋佳久
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日 1限
教員の略歴	平成26年3月 中学校教諭一種免許状免許(英語)取得						
授業の学習内容	グローバルな感性を養うためのコミュニケーションに必要な英会話を身につける。						
到達目標	医療英語テキストに基づき、文法、発音、リスニングなど英語を習得するスキルと、医療に関する英語語彙を様々なアクティビティを通して学習する。 眼科の現場で簡単なコミュニケーションが英語で出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験100点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義	■Chapter 1 相手を知る 眼科で受付対応が出来るようになる 病院の職業の言い方がわかる	教科書の予習・復習をする。
2	4/12	講義	■Chapter 2 病院案内 病院内の場所の言い方を覚える 病院内の案内が出来る	教科書の予習・復習をする。
3	4/19	講義	■Chapter 3 身体の部位と痛み 身体の部位の名称を覚える 身体の痛みを説明出来る 症状の名称を覚える	教科書の予習・復習をする。
4	4/26	講義	■Chapter 4 病気と症状 I have/I feel/I have a ---. の使い方を覚える	教科書の予習・復習をする。
5	5/10	講義	■Chapter 5 既往歴① 重病や症状の名称を覚える	教科書の予習・復習をする。
6	5/17	講義	■Chapter 6 既往歴② 患者の既往歴、家族歴を尋ねることが出来る 患者の習慣について尋ねることが出来る 内臓の名称を覚える	教科書の予習・復習をする。
7	5/24	講義	■Chapter 7 患者への指示 診察時に患者に指示を与えることが出来る 身体計測が出来る	教科書の予習・復習をする。
8	5/31	講義	■Chapter 8 バイタルサインの測定 バイタルサインの測定が出来る	教科書の予習・復習をする。
9	6/7	講義	■Chapter 10 注射 注射をすることが出来る 患者に処置の説明が出来る	教科書の予習・復習をする。
10	6/14	講義	■Chapter 12 眼科での検査 眼科で患者の検査が出来る	教科書の予習・復習をする。
11	6/21	講義	■Chapter 16 会計 医療費を説明出来る	教科書の予習・復習をする。
12	6/28	講義	■Chapter 17 薬の種類 薬について患者に指示できる 処方箋について説明出来る	教科書の予習・復習をする。
13	7/5	講義	■眼の検査 眼の検査で使われる単語を覚える 様々な眼の検査の名称を覚える	教科書の予習・復習をする。
14	7/12	講義	■ロールプレイ 視力検査のロールプレイを行う	教科書の予習・復習をする。
15	7/26	講義	定期試験	
16	8/2	講義	定期試験の解説 これまで学習した内容の復習	解説をノートにまとめる
準備学習 時間外学習			教科書を熟読する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
医療英語コミュニケーション				

科目名 (英)	人間発達学 ( Human Development )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	蒔苗詩歌
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	土曜 1.2.3限
教員の略歴	修士(教育学) 専門領域は認知心理学、特別支援教育。大学障害学生支援室や精神科にて勤務。						
授業の学習内容	生まれてから亡くなるまで、各発達段階での心身の発達と、そこで直面する課題、乗り越える成長過程を扱う。教科書を通しての知識的な学びだけでなく、自身の経験をふりかえったり、家族、友人など、身近な方々へ思いを馳せながら学ぶことができる。身近な方々へ思いを馳せることを通して、自身の自己発見／理解につなげていくことを目指す。発達段階に応じて、視能訓練士としてどのように関わることができるのか、自分の考えを述べたり、他の人と意見を交わしたりすることで、さらに理解を深め説明できる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で提示されるキーワードについて説明することができる。</li> <li>発達段階における、成長過程や課題を検討することができる。</li> <li>視能訓練士業務において、生涯発達の視点をどのように生かすことができるか、考えることができる。</li> </ul>						
評価方法及び基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>小テストおよび小レポート 40% 各日終了時に課題を提示します。次回授業時に小テストによる確認、あるいは小レポート提出を課します。授業で扱った内容について、復習しましょう。また疑似体験や事例検討を通して、より実践的に学びを深めたいと思います。積極的に参加しましょう。</li> <li>最終試験 60% 各発達段階における成長過程や課題を丸暗記するだけでなく、自身の言葉で整理・説明できることを求めます。視能訓練士を目指すにあたって、生涯発達の知識をどのように生かすことができるか考えてみましょう。</li> </ol>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月18日	講義	生涯人間発達論、発達の概念	生涯における発達とは、どのようなことでしょうか。
2	9月18日	講義	乳児期(0～1歳)	身体発達段階について復習しましょう。
3	9月18日	講義	幼児前期(1～3歳)	発達段階に応じた関わり方を考えてみましょう。
4	10月2日	講義	幼児後期(3～6歳)	発達段階に応じた関わり方を考えてみましょう。
5	10月2日	講義	学童期(6～12歳)	ご自身の経験をふりかえってみましょう。
6	10月2日	講義	思春期(12～18歳)	ご自身の経験をふりかえってみましょう。
7	10月16日	講義	青年期(18～22歳)	ご自身の経験をふりかえってみましょう。
8	10月16日	講義	成人前期(22～30歳)	自己理解と受容の段階を考えてみましょう。
9	10月16日	講義	成人中期(30～50歳)	家庭や社会における自己実現を考えてみましょう。
10	11月13日	講義	成熟期(50～65歳)	心身の発達について復習しましょう。
11	11月13日	講義	成人後期(65歳～)	生と死への受け入れを考えてみましょう。
12	11月13日	講義	事例検討: 乳児・幼児期	視能訓練士としての関わり方を話し合ってみよう。
13	12月4日	講義	事例検討: 学童・思春期	視能訓練士としての関わり方を話し合ってみよう。
14	12月4日	講義	事例検討: 青年・成人期	視能訓練士としての関わり方を話し合ってみよう。
15	2月5日	講義	試験解説、授業まとめ	解説を通して、理解を深めましょう。
準備学習 時間外学習		人間の発達を学ぶということは、自らの生涯(発達)についても考えることにもなると思います。自分のこれまでを振り返りつつ、これからの見据えながら、授業のテーマを考えてみてください。		
【使用教科書・教材・参考書】学校指定: 服部祥子『生涯人間発達学—人間への深い理解と愛情をはぐくむために』、医学書院 毎時間、資料を配布します。各回テーマの参考書も提示しますのでぜひ復習に活用してください。				



科目名 (英)	人体の構造と機能 I (Structural Function of Human Body I)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	加藤徳子
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	東北大学大学院農学研究科卒、東北文化学園大専門学校非常勤講師						
授業の学習内容	解剖生理学のみならず細胞・組織学、人体発生学を取り入れて、総合的に形態、機能について講義する。						
到達目標	人体の構造・機能について、解剖生理学を中心に学習し、理解できるようにする。						
評価方法と基準	定期試験100%。試験問題の6割以上を正しく解答できること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月20日	講義	細胞の構造・機能、細胞間結合を説明できる。	プリントとノートによる予習と復習
2	4月27日	講義	上皮・支持・筋・神経組織および器官系を説明できる。	同上
3	5月11日	講義	心臓の構造と機能、刺激伝導系を説明できる。	同上
4	5月18日	講義	動脈系・肺・体循環、大動脈弓、大動脈を説明できる。	同上
5	5月25日	講義	静脈系・肺・体循環、胎児循環、リンパ系を説明できる。	同上
6	6月1日	講義	消化器の基本構造、口腔、咽頭、食道、胃を説明できる。	同上
7	6月8日	講義	小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜を説明できる。	同上
8	6月15日	講義	鼻腔、咽頭、喉頭、気管・気管支、肺を説明できる。	同上
9	6月22日	講義	腎臓、腎門、腎杯、腎小体、尿細管を説明できる。	同上
10	6月29日	講義	尿路、尿管、膀胱、膀胱三角、尿道を説明できる。	同上
11	7月6日	講義	精巣、精路、卵巣、卵管、子宮、外生殖器を説明できる。	同上
12	7月13日	講義	視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、性腺を説明できる。	同上
13	7月20日	講義	受精と発生、胎児の発生を説明できる。	同上
14	7月27日	講義	聴覚器と平衡感覚器を説明できる。	同上
		試験		
15	8月3日	解答・講義	味覚器、嗅覚器、脳底の脳神経を説明できる。	同上
準備学習 時間外学習		プリント、教科書、参考書を予習・復習する。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
「人体解剖学」構造と機能 ミクロからマクロまで F.Hマティーニ 西村書店 「解剖学—人体の構造と機能—」渡辺 皓 サイオ出版 「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂				

科目名 (英)	病理学 ( Pathology )		必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	大沼 英子
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 月曜日2限
教員の略歴	東北大学歯学部卒業後、同大大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて病理学、解剖学等関連科目の講義を行っている							
授業の学習内容	疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得できる。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学び説明できる。							
到達目標	疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深め、説明できる。							
評価方法及び基準	定期試験 70% レポートおよび出席状況、授業態度等の定常点30%							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容			準備学習 時間外学習(学習課題)		
1	9月6日	講義	病理学の業務と関係用語を説明できる			必要に応じて確認		
2	9月13日	講義	疾患の原因(内因)を説明できる			必要に応じて確認		
3	9月27日	講義	疾患の原因(栄養障害)を説明できる			必要に応じて確認		
4	10月4日	講義	疾患の原因(物理的外因)を説明できる			必要に応じて確認		
5	10月18日	講義	疾患の原因(化学的外因)を説明できる			必要に応じて確認		
6	10月25日	講義	疾患の原因(生物学的外因)を説明できる			必要に応じて確認		
7	11月1日	講義	細胞障害で起こる現象を説明できる			必要に応じて確認		
8	11月8日	講義	代謝障害で起こる現象を説明できる			必要に応じて確認		
9	11月15日	講義	循環障害で起こる現象を説明できる			必要に応じて確認		
10	11月22日	講義	細胞の修復過程を説明できる			必要に応じて確認		
11	11月29日	講義	炎症で起こる現象を説明できる			必要に応じて確認		
12	12月6日	講義	免疫に関わる細胞とシステムを説明できる			必要に応じて確認		
13	12月13日	講義	免疫異常によって起こる疾患を説明できる			必要に応じて確認		
14	12月20日	講義	腫瘍とはどのようなものかを説明できる			必要に応じて確認		
15	1月31日	講義	試験解説・総括			必要に応じて確認		
準備学習 時間外学習		解剖学・生理学など関連する内容について、必要に応じて確認しながら理解を深めてほしい						
【使用教科書・教材・参考書】 □ わかりやすい病理学 改訂6版 南江堂								

科目名 (英)	医学概論 (Introduction to Medicine)		必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	大沼 英子
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日2限
教員の略歴	東北大学歯学部卒業後、同大大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて病理学、解剖学等関連科目の講義を行っている							
授業の学習内容	疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得する。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学ぶ。							
到達目標	疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深める。							
評価方法及び基準	定期試験 70% レポートおよび出席状況、授業態度等の定常点30%							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容			準備学習 時間外学習(学習課題)		
1	4月5日	講義	医学の定義と使命・医学の歴史を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
2	4月12日	講義	医学の倫理を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
3	4月19日	講義	人体の構成する細胞、臓器を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
4	4月26日	講義	各臓器の機能を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
5	5月10日	講義	主要な症状とその原因を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
6	5月17日	講義	主要な疾患と対応を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
7	5月24日	講義	主要な疾患と対応を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
8	5月31日	講義	主要な疾患と対応を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
9	6月7日	講義	人口統計の指標と現状を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
10	6月14日	講義	社会保障制度と医療保障を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
11	6月21日	講義	医療関係職とその現状を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
12	6月28日	講義	保健医療対策を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
13	7月5日	講義	保健医療対策を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
14	7月12日	講義	医療関係法規を説明できる			講義内容についてノートにまとめる		
15	8月2日	講義	解説に関してノートにまとめる			解説に関してノートにまとめる		
準備学習 時間外学習		解剖学・生理学・公衆衛生学など関連する内容について、必要に応じて確認しながら理解を深める						
【使用教科書・教材・参考書】 □								
医学概論 改訂6版 中外医学社								

科目名 (英)	視覚生理学 I ( Visual Physiology I )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	成田周平
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 水曜
教員の略歴	2016年視能訓練士取得後 眼科クリニックにて勤務。						
授業の学習内容	視覚には大きく分けて光覚、色覚、形態覚、視野といった要素がある。 今後眼について学ぶうえで、それぞれの要素の概念や関係する用語を理解する必要がある。 この授業ではこれら視覚に関する生理を学ぶ。						
到達目標	①視覚の発生について理解、説明できる。 ②視覚の各要素の正常について説明できる。						
評価方法と基準	定期試験(筆記)100%						

授業計画・内容授業計画・内容							
回数	日程日程	授業形態	学習内容	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1	1月12日	講義	形態覚(視力)	視力の定義を説明出来る。	講義内容についてノートにまとめる		
2	1月12日	講義	形態覚(視力)	視力の種類を理解する。	講義内容についてノートにまとめる		
3	1月19日	講義	形態覚(視力)	影響する因子を理解する。	講義内容についてノートにまとめる		
4	1月19日	講義	光覚	錐体・杆体を説明出来る。	講義内容についてノートにまとめる		
5	1月19日	講義	光覚	比視感度、順応に関して説明出来る。	講義内容についてノートにまとめる		
6	1月19日	講義	色覚	色の特性に関して説明出来る。	講義内容についてノートにまとめる		
7	1月26日	講義	色覚	色覚異常に関して説明出来る。	講義内容についてノートにまとめる		
8	2月2日	講義	色覚	検査の種類を説明出来る。	講義内容についてノートにまとめる		
9	2月2日	講義	視野	視野の概念を説明出来る、	講義内容についてノートにまとめる		
10	2月2日	講義	視野	測定方法を説明出来る。	講義内容についてノートにまとめる		
11	2月9日	講義	視野	各疾患と視野異常を説明出来る。	講義内容についてノートにまとめる		
12	2月9日	講義	電気生理	ERGの原理・方法・結果を説明出来る。	講義内容についてノートにまとめる		
13	2月9日	講義	電気生理	VEPの原理・方法・結果を説明出来る。	講義内容についてノートにまとめる		
14	2月9日	講義	電気生理	EKG、ENGの原理・方法・結果を説明出来るようになる。	講義内容についてノートにまとめる		
15	2月16日	講義	試験解説		講義内容についてノートにまとめる		
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】							
視能学第二版 文光堂							

科目名 (英)	視覚生理学実習 ( Practical Training in Optical Physiology )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉田菜央
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	眼科医院勤務を経て仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士						
授業の学習内容	視能矯正学実習で学んだ知識をもとに、乱視表を使用した乱視矯正を行う。 視覚生理学で学んだ知識をもとに、視野検査・電気生理学検査 (VEP・EOG・ERG) の手技を学ぶ。 また、医療従事者としての身だしなみ・言葉づかい・患者様とのコミュニケーションの取り方を学ぶ。						
到達目標	①他覚的屈折値を参考にした、球面矯正が出来るようになる。 ②球面矯正から、乱視表を使用した乱視矯正が出来るようになる。 ③医療においての、衛生・不衛生をきちんと理解出来るようになる。 ④電気生理学検査の手技および結果の見方を理解できるようになる。						
評価方法及び基準	1 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容		準備学習 時間外学習(学習課題)		
1	9月8日	実習	球面矯正…矯正視力を測定できる。	VEP…視覚誘発電位の測定原理を理解し説明できる。基本的な測定方法を実施できる。	講義内容に関して、ノートにまとめる。		
2			乱視について復習し、理解できる。				
3	9月9日	講義・実習	視野検査…視野の定義について学ぶ。、GPの測定方法を理解できる。	視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。	講義内容に関して、ノートにまとめる。		
4							
5	9月15日	実習	VEP…視覚誘発電位の測定原理を理解し説明できる。基本的な測定方法を実施できる。	球面矯正…矯正視力を測定できる。 乱視について復習し、理解できる。	講義内容に関して、ノートにまとめる。		
6							
7	9月16日	実習	視野検査…視野の定義について学ぶ。、GPの測定方法を理解できる。	視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。	講義内容に関して、ノートにまとめる。		
8							
9	9月22日	講義・実習	他覚的屈折検査…オートレフラクトメータを使用し他覚的屈折値を測定できる。	EOG…眼球電位図の検査原理を理解し説明できる。衝動性・滑動性眼球運動の波形を測定できる。	B班:VEP・EOGLEポート課題		
10							
11	9月29日	実習	EOG…眼球電位図の検査原理を理解し説明できる。衝動性・滑動性眼球運動の波形を測定できる。	他覚的屈折検査…オートレフラクトメータを使用し他覚的屈折値を測定できる。	A班:VEP・EOGLEポート課題		
12							
13	10月7日	講義・実習	視野検査…視野の定義について学ぶ。、GPの測定方法を理解できる。	視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。	講義内容に関して、ノートにまとめる。		
14							
15	10月13日	実習	乱視表…検査原理および測定方法を理解できる。		講義内容に関して、ノートにまとめる。		
16							
17	10月20日	実習	乱視表…雲霧レンズを算出することができる。 乱視表の見え方と乱視軸との関係を理解できる。	ERG…検査機器の正しい取り扱いができる。 点眼薬を適切に点眼できる。	講義内容に関して、ノートにまとめる。		
18							
19	10月27日	実習	ERG…検査機器の正しい取り扱いができる。 点眼薬を適切に点眼できる。	乱視表…雲霧レンズを算出することができる。 乱視表の見え方と乱視軸との関係を理解できる。	講義内容に関して、ノートにまとめる。		
20							
21	11月10日	実習	乱視表…乱視軸の微調整、球面レンズの微調整ができる。 通して乱視矯正できる。	ERG…清潔に配慮して検査を実践できる。 波形のアーチファクトのチェックができる。	講義内容に関して、ノートにまとめる。		
22							
23	11月17日	実習	ERG…清潔に配慮して検査を実践できる。 波形のアーチファクトのチェックができる。	乱視表…乱視軸の微調整、球面レンズの微調整ができる。 通して乱視矯正できる。	ERGLEポート課題 乱視表レポート課題		
24							
25	12月2日	講義・実習	視野検査…視野の定義について学ぶ。、GPの測定方法を理解できる。	視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。	講義内容に関して、ノートにまとめる。		
26							
27	12月16日	講義・実習	視野検査…視野の定義について学ぶ。、GPの測定方法を理解できる。	視野検査…視野の定義について学ぶ。GPの測定方法を理解できる。	講義内容に関して、ノートにまとめる。		
28							
29	2月2日	講義	定期試験解説 試験解説の内容を理解できる。		試験解説に関して、ノートにまとめる。		
30							
準備学習 時間外学習			積極的に自主練習を行う。				
【使用教科書・教材・参考書】 □							
目でみる視力・屈折検査の進め方 理解を深めよう視力検査屈折検査 眼科検査法ハンドブック第4版							

科目名 (英)	視器の解剖生理学 (Anatomical Physiology of Visual Organs)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	溝口二郎
	学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 ( 3 )	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	山形大学医学部解剖学教室を経て東北大学大学院医学系研究科准教授を歴任 医学博士						
授業の学習内容	視覚器の解剖生理学は理解することが肝要であるので、解剖組織図で理解を深め、生体内での詳細な視覚器構造と機能を学習させる。 後半にブタの眼球解剖実習を取り入れて、生体の視覚器を解剖・観察することにより、専門分野に対する積極的な取り組み姿勢の確立をさせる。						
到達目標	視覚器の構造・機能および生理を、細胞学・組織学・発生学の基礎の上に、系統的に理解できるようにする。						
評価方法と基準	確認試験50%、定期試験50%。2つの試験問題の6割以上を正しく解答できること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/15	講義	人体の構成：総論、各論—細胞を理解する	プリントとノートによる予習と復習
2	4/22	講義	上皮・結合・筋・骨・神経組織、皮膚を理解する	同上
3	5/6	講義	解剖学用語：人体の区分・部位、切断面を理解する	同上
4	5/13	講義	眼球の構造 総論：眼球軸と視軸を理解する	同上
5	5/20	講義	眼球の構造 各論：強膜、シュレム管を理解する	同上
6	5/27	講義	角膜の5層構造、角膜構造図をの理解	同上
7	6/3	講義	脈絡膜の4層構造、ぶどう膜を理解する	同上
8	6/10	講義	毛様体5層構造、毛様体筋を理解する	同上
9	6/17	講義	虹彩、瞳孔括約筋・散大筋、色素上皮を理解する	同上
10	6/24	講義	網膜—視神経円板、黄斑、中心窩を理解する	同上
11	7/1	講義	杆状体・錐状体・双極・水平・視神経節細胞を理解する	同上
12	7/8	講義	水晶体、毛様体小帯、硝子体、眼房水を理解する	同上
13	7/15	講義	眼球の脈管：網膜・毛様体血管系を理解する	同上
14	7/22	講義	眼球の神経：視神経、長毛様体神経を理解する	同上
15	7/29	試験	確認試験	
16	8/5	解答・講義	短毛様体神経、眼球以外視覚器神経を理解する	プリントとノートによる予習と復習
17	9/9	講義	上眼瞼挙筋、眼輪筋、瞼板筋、瞼板腺を理解する	同上
18	9/16	講義	眼瞼結膜、眼球結膜、結膜円蓋を理解する	同上
19	9/30	講義	涙器：涙腺、涙道、鼻涙管、ハスナー弁を理解する	同上
20	10/7	講義	外眼筋：外眼筋の作用と神経支配を理解する	同上
21	10/14	講義	眼窩：構成骨、視神経管、上・下眼窩裂を理解する	同上
22	10/21	講義	視神経：乳頭、視交叉、網膜中心動脈を理解する	同上
23	10/28	講義	視覚路：視索、外側膝状体、視放線、内包、烏距溝を理解する	同上
24	1/27	試験	期末試験	
25	2/3	解答・実習	ブタの眼球解剖実習：新鮮・化学固定眼球	プリントとノートによる予習と復習
準備学習 時間外学習		プリント、教科書、参考書を予習・復習する。		
「現代の眼科学」 監修 所 敬 金原出版 「人体解剖学」構造と機能 ミクロからマクロまで F.Hマティーニ 西村書店 「ネッター解剖学アトラス」 訳 相磯貞和 南江堂				

科目名 (英)	医用電子工学概論 ( Medical Engineering )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山田昭博
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜4限
教員の略歴	平成27年東北大学大学院医工学研究科修了、博士(医工学)。平成28年東北大学 加齢医学研究所の助教となり、現在に至る。主な研究テーマは、小児用人工心臓に関する研究。						
授業の学習内容	医療における診断は、体から発するシグナルをどのように捉え、理解するかが重要となる。また、臨床現場は、多くの医用工学機械が使用されている。測定原理や、仕組みを理解することでより検査結果やその評価をより深いものにする。最低限の工学知識を習得し、一般診療測定器機および眼科医療器械について学習する。						
到達目標	電子工学の一般知識を習得し、簡単な電気回路計算を行うことができる。一般的な医療機器、診療測定器機、眼科医療器械の測定原理について理解することができ、他者に説明することができる。						
評価方法と基準	レポート提出および、授業内評価による。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/14	講義	直流電気回路を説明できる	講義内容についてノートにまとめる
2	5/21	講義	磁石および磁場を説明できる	講義内容についてノートにまとめる
3	5/28	講義	静電気を説明できる	講義内容についてノートにまとめる
4	6/4	講義	交流電気回路を説明できる	講義内容についてノートにまとめる
5	6/18	講義	エレクトロニクスおよび電子計測を説明できる	講義内容についてノートにまとめる
6	6/25	講義	血圧計・心電図などの診断機器の原理を説明できる	講義内容についてノートにまとめる
7	7/2	講義	網膜電図などの眼科系機器、医療機器の安全対策を説明できる	授業後、レポート課題を提示
8	7/16	講義	レポート内容を解説し、理解する	講義内容についてノートにまとめる
準備学習 時間外学習				
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b>				
教科書:看護・医療技術者のためのたのしい電気・電子工学(曾根福保・加藤穰治 著、日本理工出版会 刊)、講義資料を配布 参考書:眼科検査法ハンドブック(小口 芳久、大月 洋、沢 充 著、医学書院 刊)MEの基礎知識と安全管理(日本生体医工学会ME技術教育委員会、南江堂)				

科目名 (英)	公衆衛生学 ( Public Hygiene )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	草間太郎
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 曜日・時限 金曜日1限
教員の略歴	東北大学大学院歯学研究科 助教(歯科医師・歯学博士)						
授業の学習内容	「健康とは何か」を理解し、健康を守るための方法として特に最初の段階である一次予防を理解することは、保健医療に携わるものとして必要不可欠な共通言語である。そのため公衆衛生学は各科目の根幹をなす学問ともいえる。概念を理解し具体的な実践のイメージが持てる学生を育てる授業とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康の概念の理解。</li> <li>予防医学の概念の理解。</li> <li>具体的な公衆衛生活動の理解。</li> </ul>						
評価方法と基準	1) 定期テスト90% 2) 出席数10% ※具体的な達成の目安: 理想的な達成レベルの目安=試験で80%以上の得点、標準的な達成レベルの目安=試験で70点以上の得点 ※準備学習、時間外学習の評価: これらに関する授業中の質疑応答による。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月9日	双方向遠隔授業	公衆衛生の歴史を理解する。	教科書の該当範囲の精読
2	4月16日	双方向遠隔授業	健康の概念について説明できる。	教科書の該当範囲の精読
3	4月23日	双方向遠隔授業	感染症の性質を説明できる。	教科書の該当範囲の精読
4	5月7日	双方向遠隔授業	環境衛生の概念を説明できる。	教科書の該当範囲の精読
5	5月14日	双方向遠隔授業	食中毒や食品衛生について説明できる。	教科書の該当範囲の精読
6	5月21日	双方向遠隔授業	母児保健活動について説明できる。	教科書の該当範囲の精読
7	5月28日	双方向遠隔授業	学校保健活動について説明できる。	教科書の該当範囲の精読
8	6月4日	双方向遠隔授業	産業保健について説明できる。	教科書の該当範囲の精読
9	6月18日	双方向遠隔授業	成人保健について説明できる。	教科書の該当範囲の精読
10	6月25日	双方向遠隔授業	高齢者の保健施策について説明できる。	教科書の該当範囲の精読
11	7月2日	双方向遠隔授業	精神保健について説明できる。	教科書の該当範囲の精読
12	7月9日	双方向遠隔授業	行政の仕組みについて説明できる。	教科書の該当範囲の精読
13	7月16日	講義	疫学の概念を説明できる。	教科書の該当範囲の精読
14	7月23日	講義	これまでの講義の概要を説明できる。	練習問題の解きなおし。
		試験		
15	8月6日	講義	定期試験解説	解説をノートにまとめる。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
シンプル衛生公衆衛生学2020				



科目名 (英)	保育 ( Nursery )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	齋藤永子
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	後期 曜日・時限 火曜3限
教員の略歴	元・聖和短大保育科教員(臨床心理・障害児保育等)、現・POP子育て相談室主宰、臨床発達心理士、保育スーパーバイザー						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心の発達過程を理解できる。</li> <li>・児童文化財について理解し、実際に触れて説明できる。</li> <li>・子どもの対応のポイントを説明できる。</li> <li>・子どもに関わる社会的な問題について説明できる。</li> </ul>						
到達目標	子どもの特性を理解し、適切にかかわることができる。 また、子どもについての社会的な問題に関心を持ち、説明できる。						
評価方法と基準	1.定期試験 (50%) 2.課題レポート (30%) 3.小レポート (10%) 4.研究発表 (10%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/7	講義・グループワーク	オリエンテーション 自分の子ども時代を思い出すことができる。	小レポート①
2	9/14	講義	児童文化財について(1) 定義・意義を理解できる。	
3	9/21	講義	児童文化財について(2) 絵本・紙芝居などを理解できる	小レポート②
4	9/28	講義	児童文化財について(3) 遊びについて理解できる	小レポート③
5	10/5	講義	子どもの心の発達(1) 感情の発達について理解できる。	
6	10/12	講義	子どもの心の発達(2) 認知の発達について理解できる。	
7	10/19	講義	子どもの心の発達(3) 人間関係の発達について理解できる。	
8	10/26	講義・グループワーク	子どもの心の発達(4) 家族のかかわりについて理解できる	小レポート④
9	11/2	講義・グループワーク	子どもの心の発達(5) 対応のポイントについて理解できる。	小レポート⑤
10	11/9	講義	保育の制度(1) こども園などの施設について学ぶ。	
11	11/16	講義	保育の制度(2) 子育て支援について理解できる。	小レポート⑥
12	11/30	講義	絵本よみきかせ・研究発表を行う。	研究発表準備
13	12/7	講義・グループワーク	子どもの相談事例を検討することができる。	小レポート⑦
14	12/14	講義	子どもと社会について、今後の課題について理解できる。	小レポート⑧
15	2/1	解説	定期試験解説	
準備学習 時間外学習		絵本を読む、子どもに関する新聞記事をよむ		
【使用教科書・教材・参考書】				
資料配布				

科目名 (英)	社会福祉概論	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	黒沢麻美
	(Social Welfare)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 火曜日 2限
学科・コース	視能訓練科						
教員の略歴	介護福祉士として高齢者福祉施設にて5年間勤務、その後介護福祉士養成校にて教員として勤務し高齢者福祉をベースに教育・指導する。(H22～)						
授業の学習内容	社会福祉の理念と意義をはじめ、社会福祉の歴史や概念などを学び、現代社会の福祉関連諸問題について広く学習する。						
到達目標	1.現代における社会福祉の理念・意義及び、社会福祉関係諸法、福祉の歴史や対象などの概要を理解できる。 2.社会福祉ニーズとは何か、また、その援助方法について理解する。 3.福祉を学ぶ必要性について自ら考えることができる。						
評価方法と基準	定期試験 80%、平常点(授業の取り組み状況・確認テスト) 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月7日	講義	オリエンテーション、社会福祉の対象と範囲を理解し説明できる。	社会福祉とは何かについて整理する
2	9月14日	講義	社会福祉の価値観について学び説明できる。	社会福祉の考え方について整理する
3	9月21日	講義	社会福祉の歴史的展開(欧米)を学び説明できる。	欧米における社会福祉の関連問題について整理する
4	9月28日	講義	社会福祉の歴史的展開(日本)～昭和初期	日本における社会福祉の歴史について整理する
5	10月5日	講義	社会福祉の歴史的展開(日本)戦後～現代	日本における社会福祉の歴史について整理する
6	10月12日	講義	社会福祉の法制度を学び説明できる。	社会福祉関連法について講義資料や福祉六法等で確認する
7	10月19日	講義	低所得者を対象としたサービスを学び説明できる。	生活保護法の目的条文を確認する
8	10月26日	講義	子どもと家族を対象とした福祉サービスを学び説明できる。	児童福祉法を確認し、児童を取り巻く福祉的課題について概観する
9	11月2日	講義	障害者を対象とした福祉サービスを学び説明できる。	障害とは何かを考えとともに障害者福祉を支えるしくみについて概観する
10	11月9日	講義	高齢者を対象とした福祉サービスを学び説明できる。	高齢者を取り巻く状況についてや法制度について概観する
11	11月16日	講義	社会福祉領域で活躍する専門職を学び説明できる。	各種領域で実際に働く専門職について整理する
12	11月30日	講義	社会福祉の対象へ対する連携のあり方について学び、説明できる。	地域福祉を含め、対象を取り巻く社会資源等について整理する
13	12月7日	講義	社会保障制度の仕組みとサービスを学び説明できる。	社会保障制度の仕組みについて概観する
14	12月14日	講義	社会福祉の支援と実際について学び説明できる。	現代の社会福祉に関する諸問題について考える
		試験		
15	2月1日	講義	試験解説	解説内容をノートにまとめる
準備学習 時間外学習			社会福祉に関心を持ち、ニュースや新聞・参考書等を活用し自主学習を行ってほしい	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
参考書:社会福祉概論、プリント配布				

科目名 (英)	視能矯正学概論 ( Orthoptics )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	畑山りお
	学科・コース 視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 ( 4 )	開講区分 曜日・時限	前期/木曜1限 後期/水曜3限
教員の略歴	眼科医院勤務を経て仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士						
授業の学習内容	視能矯正の枠組み理論を理解する。両眼視機能の発達を基本理論を学ぶ。						
到達目標	視覚の発達及び両眼視機能の発達の基本理論を理解する。						
評価方法と基準	定期試験:筆記(70%) 作成物 :提出(30%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月8日	講義	オリエンテーション・四則計算ができる。	講義内容をノートにまとめる。
2	4月22日	講義	数量(単位)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
3	5月6日	講義	レンズ1(屈折)の作用を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
4	5月13日	講義	レンズ2(偏光)の作用を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
5	5月20日	講義	視覚1(形態覚・光覚・色覚)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
6	5月27日	講義	視覚2(視角、視力)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
7	6月3日	講義	視覚3(幼年型視覚)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
8	6月10日	講義	総括1(講義1回～7回の確認試験)を行う。	試験内容をノートにまとめる。
9	6月17日	講義	総括1(確認試験)の解答、解説を行う。	解説をノートにまとめる。
10	6月24日	講義	両眼視機能1(用語)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
11	7月1日	講義	総括2(講義10回～12回の演習試験)を行う。	講義内容をノートにまとめる。
12	7月8日	講義	試験解説	講義内容をノートにまとめる。
13	7月15日	講義	両眼視機能2(視野と眼底図)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
14	7月22日	講義	両眼視機能3(像のとらえ方)を理解できる	講義内容をノートにまとめる。
15	8月5日	講義	眼位(運動面1)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
16	9月8日	講義	眼位(運動面2)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
17	9月15日	講義	総括3(講義15回～16回の確認試験)を行う。	講義内容をノートにまとめる。
18	9月22日	講義	総括3(確認試験)の解答、解説を行う。	講義内容をノートにまとめる。
19	9月29日	講義	両眼視の生理1(両眼視1)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
20	10月6日	講義	両眼視の生理1(複視2)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
21	10月13日	講義	両眼視の生理1(複視3)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
22	10月20日	講義	両眼視の生理1(混乱視)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
23	10月27日	講義	両眼視の生理1の図を描くことができる。	講義内容をノートにまとめる。
24	11月10日	講義	両眼視の生理1の図を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
25	11月17日	講義	両眼視の生理2(視空間)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
26	11月24日	講義	両眼視の生理2(網膜対応1)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
27	12月1日	講義	両眼視の生理2(網膜対応2)を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
28	12月8日	講義	総括4(講義19回～27回の確認試験)を行う。	試験内容をノートにまとめる。
29	12月15日	講義	総括4(確認試験)の解答、解説を行う。	解説をノートにまとめる。
30	2月2日	講義	試験解説	解説をノートにまとめる。
準備学習 時間外学習		教科書・配布資料を熟読すること		
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
視能学・眼科検査法ハンドブック・講義資料				

科目名 (英)	基礎視能矯正学 ( Basic Orthoptics )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	畑山りお
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	後期 木曜日 1・2限
教員の略歴	眼科医院勤務を経て仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士						
授業の学習内容	眼球運動と両眼視機能の基礎を学ぶ。						
到達目標	視能矯正を展開して行く上で基盤となる眼位、眼球運動を理解する。						
評価方法と基準	定期試験:筆記(70%) 作成物 :提出(30%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月30日	講義	オリエンテーション・眼解剖(眼球断面図)の各部の名称を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
2	9月30日	講義	外眼筋の解剖と機能を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
3	10月14日	講義	外眼筋の作用を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
4	10月14日	講義	両眼眼球運動の種類を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
5	10月21日	講義	両眼眼球運動の作用を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
6	10月21日	講義	総括1(講義1回～5回の確認試験)を行う。	試験内容をノートにまとめる。
7	10月28日	講義	総括1(確認試験)の解答、解説を行う。	解説をノートにまとめる。
8	10月28日	講義	輻輳、開散運動を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
9	11月4日	講義	調節を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
10	11月4日	講義	AC/Aを理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
11	11月11日	講義	AC/A測定法を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
12	11月11日	講義	総括2(講義8回～11回の確認試験)を行う。	試験内容をノートにまとめる。
13	11月18日	講義	総括2(確認試験)の解答、解説を行う。	講義内容をノートにまとめる。
14	11月18日	講義	総括3(講義1回～13回)重要点を理解できる。	講義内容をノートにまとめる。
15	11月25日	講義	試験解説	解説をノートにまとめる。
準備学習 時間外学習			教科書および配布資料を熟読する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
視能学・眼科検査法ハンドブック・講義資料				

科目名 (英)	生理光学 I ( Optic Physiology )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	成田周平
学科・コース	視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日1・2 限
教員の略歴	視能訓練士 眼科医院勤務						
授業の学習内容	眼に関して学んでいく上で、光学を理解することは不可欠である。 眼科において最も基本的な検査である視力検査や屈折検査を理解する上においても、光学的な知識が必要になる。 この講義では眼光学の基礎となる用語や概念を学ぶ。 また、国家試験において頻出である生理光学分野の計算問題の解き方を学ぶ。						
到達目標	①生理光学に関する用語や概念を理解する。 ②光学に関する計算問題を解けるようにする。						
評価方法と基準	定期試験(筆記) 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月8日	講義	視力に関する計算ができるようになる。	講義内容についてノートにまとめる
2	9月8日	講義	光の屈折について説明出来るようになる。	講義内容についてノートにまとめる
3	#####	講義	レンズの性質について説明出来るようになる。	講義内容についてノートにまとめる
4	#####	講義	近視・遠視について説明出来るようになる。	講義内容についてノートにまとめる
5	#####	講義	乱視について説明出来るようになる。	講義内容についてノートにまとめる
6	#####	講義	パワークロスが書けるようになる。	講義内容についてノートにまとめる
7	#####	講義	スタームのコノイドを書けるようになる。	講義内容についてノートにまとめる
8	#####	講義	遠点・近点・調節力の計算ができるようになる。	講義内容についてノートにまとめる
9	#####	講義	明視域の計算ができるようになる。	講義内容についてノートにまとめる
10	#####	講義	プリズムについて説明出来るようになる。	講義内容についてノートにまとめる
11	#####	講義	輻輳について説明出来るようになる。	講義内容についてノートにまとめる
12	#####	講義	眼鏡・コンタクトレンズの相違点を説明出来るようになる。	講義内容についてノートにまとめる
13	#####	講義	倍率・反射鏡の計算ができるようになる。	講義内容についてノートにまとめる
14	#####	講義	演習問題	講義内容についてノートにまとめる
15	#####	講義	試験解説	講義内容についてノートにまとめる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	進級・卒業研究 ( Orthoptics )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	菅原みずえ
	学科・コース 視能訓練科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期 木曜日2限
教員の略歴	大学病院勤務を経て仙台医健・スポーツ専門学校 視能訓練科 専任教員						
授業の学習内容	職業人としての身構え・気構え・心構えを身につける。 専門的な知識や技術を通して、各自で疑問に思ったことや興味を持った分野に着目し、研究を進める。						
到達目標	①各班で研究テーマを決定し、研究計画書を提出できるようになる。 ②テーマに沿ったデータ収集が出来るようになる。 ③PPTと抄録を作成出来るようになる。 ④クラス内研究報告会で発表できるようになる。						
評価方法と基準	クラス内研究報告会 50% 研究計画書30% 提出物20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態・時間帯	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月8日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
2	4月22日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
3	5月6日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
4	5月13日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
5	5月20日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
6	5月27日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
7	6月3日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
8	6月10日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
9	6月17日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
10	6月24日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
11	7月1日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
12	7月8日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
13	7月15日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
14	7月22日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
15	8月15日	講義	職業人に向けて必要なことを説明できる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	視能矯正学実習 ( Minor Correction Study Practice )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	畑山りお
		授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	60 ( 2 )	開講区分	前期 火曜 後期 火曜 火曜
学科・コース	視能訓練科						
教員の略歴	眼科医院勤務を経て仙台医健・スポーツ専門学校 専任教員 視能訓練士						
授業の学習内容	眼科診療を行う上で、屈折検査、視力検査は全ての検査において基本となる検査である。生理光学、解剖学、物理学、基礎視能矯正学等で学んだ内容を理解した上で、視力検査の基本的な手技を習得する。 また、医療従事者としての身だしなみ・言葉づかい・患者様とのコミュニケーションの取り方を学ぶ。						
到達目標	①瞳孔間距離が測定出来るようになる。 ②裸眼および矯正視力が測定出来るようになる。 ③屈折異常(正視、遠視、近視、乱視)について説明出来るようになる。 ④レンズメータ(オート、マニュアル)にてレンズ度数を測定出来るようになる。 ⑤色覚検査(仮性同色表、色相配列検査、アノマロスコープ)の測定方法、結果の見方を理解出来るようになる。						
評価方法及び基準	1 定期試験 筆記(試験60%、レポート20%、出席・チェック点20%) 実技(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月20日	講義	・オリエンテーション…科目の概要・評価方法を理解する。	視力(形態覚)について予習する。
2	4月27日		視力(形態覚)について学ぶ 4つの尺度について説明できる。	視力(形態覚)について予習する。
3	5月11日	講義	・視力検査体験を通して、自らの屈折状態を知る。	視力(形態覚)についてノートにまとめる。
4	5月18日		視力の種類について説明できる。視力検査法について説明できる。	視力(形態覚)についてノートにまとめる。
5	5月25日	実習	瞳孔間距離測定を学ぶ。三田式万能メジャー、PDメーター(NIDEK PM-600)、オートレフラクトメータを使用し瞳孔間距離測定を行なう。正確な測定結果を出す	瞳孔間距離測定レポート課題
6	6月1日			
7	6月8日	実習	視力検査①…裸眼視力が測定できる。	裸眼視力測定についてノートにまとめる。
8	6月15日			
9	6月22日	実習	視力検査②…裸眼視力0.1以下の測定が出来る。裸眼視力から考えられることを説明できる。	裸眼視力測定および裸眼視力から考えられることをノートにまとめる。
10	6月29日			
11	7月6日	実習	視力検査③…球面矯正を学ぶ 屈折異常に適したレンズを選択することができる。	球面矯正についてノートにまとめる。
12	7月13日			
13	7月20日	実習	視力検査④…球面矯正を学ぶ 正しいレンズ交換ができる。 正しい球面レンズの矯正ができる。	球面矯正についてノートにまとめる。
14	7月27日			
15	8月3日	実習	視力検査⑤…球面矯正を学ぶ 検査結果と必要事項を正しく記載できる。	視力検査レポート課題
16	9月7日			
17	9月7日	実習	レンズメーターの使用法を学ぶ。マニュアル式レンズメーターの使用法を理解し、球面レンズ、トーリックレンズの度数測定ができる。	レンズメーターレポート課題
18	9月14日			
19	9月14日	実習	色覚検査①…仮性同色表(石原色覚検査表・標準色覚検査表・東京医大式色覚検査表)の使用法を理解し、正しく実施できる。	色覚検査についてノートにまとめる。
20	9月14日			
21	9月21日	実習	色覚検査②…色相配列法(Panel D-15・The Farnsworth-Munsell 100Hue Test)の使用法を理解し、正しく実施できる。	色覚検査についてノートにまとめる。
22	9月28日			
23	10月5日	実習	色覚検査③…アノマロスコープの使用法を理解し、操作できると共に検査結果を正しく評価できる。	色覚検査レポート課題
24	#####			
25	#####	実習	確認試験 1回～24回までの内容から試験を行う。	確認試験についてノートにまとめる。
26	#####		実技試験について理解する。	
27	11月2日	実習	総括 1回～26回までの内容を振り返る。	今まで行った実習の総まとめ。 授業配布資料およびレポートを持参する。
28	11月9日			
29	#####	講義	定期試験解説 試験解説の内容を理解できる。	解説をノートにまとめる。
30	#####			
準備学習 時間外学習			積極的に自主練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
目でみる視力・屈折検査の進め方 理解を深めよう視力検査屈折検査 眼科検査法ハンドブック第4版				